

征韓論 2

鎖国をしていた朝鮮に対し、西郷隆盛(さいごうたかもり)や板垣退助(いたがきたいすけ)らにより、武力による開国を主張する「征韓論」(せいかんろん)が高まる。



永嶋孟齋『西海騷揺起源征韓論之図』五月女勝五郎
明治10(1877)【寄別7-5-1-6】

征韓論 3

岩倉使節団(いわくらしせつだん)として欧米を視察していた大久保利通(おおくぼとしみち)らは、帰国すると内政の優先を唱え、朝鮮への使節派遣は中止となる。1873年、西郷隆盛らは征韓論争に敗れて辞職した(明治六年の政変)。



楊洲齋周延『征韓論之図』 浦野浅右衛門
明治10(1877)【寄別8-5-1-1】

征韓論 4

新政府は、1875年に軍艦を朝鮮半島の江華島(こうかとう)に近づけた。その結果、朝鮮と戦闘となり、江華島事件が起きた。



芳年『雲揚艦兵士朝鮮江華戦之図』万屋孫兵衛【本別9-28】

征韓論 5

江華島事件をきっかけに、1876年、朝鮮を独立国と認めた条約「日朝修好条規」(にっちょうしゅうこうじょうぎ)を結び、朝鮮を開国させた。この内容は朝鮮にとって不平等なものだった。

○第三十四號 (三)三十二頁
今茲朝鮮國、開邦、適リ條約重訂相成條條此旨布告候事

(別冊)

修好條規

大日本國

大朝鮮國ト素ヨリ友誼ニ致シ年所ヲ歴有セリ今兩國ノ情意氷ヲ治キカラ好ヲ修メ親睦ヲ固マセント欲ス是ヲ以テ日本國政府ハ特命全權辦理大臣孫田清臣時會副全權辦理大臣讓官井上馨ヲ條々朝鮮國江華府ニ贈リ朝鮮國政府謝意書ヲ撰來テ簡々各款スル所ノ條旨ニ悉ク爾立セル條規ヲ左第一條 朝鮮國ハ自主ノ邦ニシテ日本國ト平等ノ權ヲ保有セリ嗣後兩國

『法令全書 明治9年』内閣官報局 明治20-45 (1887-1912)【CZ-4-1】